

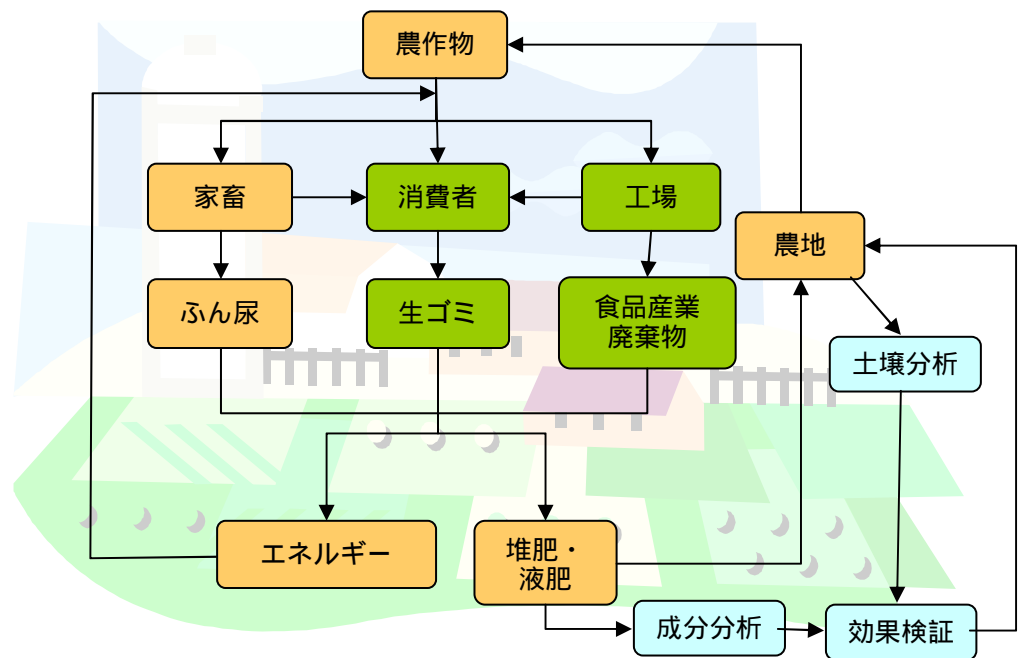
有機物（堆肥）施用による土づくり

～循環型社会の形成のために～

【概要】

地球資源の有限性の問題が大きくなってきています。このことから、環境への負荷を可能な限り少なくするために、資源の消費抑制・再利用・再資源化といった資源循環による持続可能な社会の形成が求められています。農業分野においても自然循環機能を活かし、地力増進のために堆肥等有機物を利用した「土づくり」が重要となっています。

堆肥分析を行うことで、より効果的で安全な「土づくり」を行うことができます。



循環型社会の例

【有機物の施用効果】：有機物の施用効果には、物理性・化学性・生物性の改善があります。

物理性

内容 土壌の団粒化の促進効果
効果 保水性，透水性，通気性の向上
作物の根系の発達促進

生物性

内容 土壌微生物活性を促進
効果 土壌伝染病菌の抑制

化学性

内容	効果
無機養分の供給	化学肥料の節減
保肥力の増大	
作物に対する生理活性物質の供給	植物の生育を促進
緩衝能力の増大	pHの変動抑制

【堆肥の品質評価】：家畜ふん尿堆肥は平成12年度に特殊肥料から除外され、重金属の規制値は適用されていませんが、北海道ではその規制値を守ることを指導しています。

特殊肥料中の重金属規制値

(H12.9月末まで)

項目	基準値（公定肥料分析法）
ヒ素	5.0 mg/kg
カドミウム	5 mg/kg
水銀	2 mg/kg

家畜堆肥の種類別品質基準

～3年に一回は公的な計量証明が必要です。

品質表示を要する基準項目		品質表示を要しない基準項目	
基準項目	基準値	基準項目	基準値
有機物	乾物あたり 60%以上	水分	現物あたり 70%以下
炭素 - 窒素比（C/N比）	30以下	電気伝導度（EC）	現物につき 5mS/cm以下
窒素（N）全量	乾物あたり 1%以上		
リン酸（P ₂ O ₅ ）全量	乾物あたり 1%以上		
カリ（K）全量	乾物あたり 1%以上		

【今後の予定】

- ・堆肥を投入した農地における施用効果検証